

第 1 回生物多様性推進会議 委員意見及び対応方針案

| 主な推進会議意見  | 素案への反映方針   |
|---|--|
| <p>&lt;千代田区における「生物多様性」について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手つかずの自然が安定して続いていくのが生物多様性というイメージだったが、千代田区はそういうことではないだろう。我々の生活を取り巻く生きものや緑、環境を意識した活動をしていく、そういうイメージだろう。</li> <li>・千代田区として考えると、豊かな自然を「残す」「増やす」とはイメージが違う。千代田区のイメージに合わせた「ネイチャーポジティブ」の翻訳が必要だろう。</li> <li>・世の中で言われている「生物多様性」と、千代田区がイメージする「生物多様性」とは少し違っているだろう。</li> <li>・都市機能の集積した千代田区でのネイチャーポジティブは、世間一般の生物多様性だと違和感がある。場所によっては引き続き保全という大前提はあるが、ただ緑を増やすということではなく、都市における生物多様性を発現させる手法にはどんなものがあるか、そこを議論していきたい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きもの、自然そのものとそれをとりまく人間（千代田区ならではの昼間人口に値する層を含めたすべての人）の活動、都市における生物多様性を踏まえた、千代田区のイメージに合わせた「ネイチャーポジティブ」として都市ならではの自然共生社会にも言及した目標設定をする。</li> </ul> <p>【2030 年目標】</p> <p>「千代田区に集うすべての人が生物多様性を意識した行動を選択するとともに、皇居を核とした生物多様性を基盤とする生態系のつながりが区内外に広がることで、都心環境の豊かな暮らし・活動が支えられている＝千代田区におけるネイチャーポジティブ実現の姿」</p> |
| <p>&lt;2050 年目標について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2030 年の目標・状態を描くのもなかなか難しい。2050 年は目標というよりも将来像を描くというこ</li> </ul> <p>とでよいのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2050 年目標案の文中で示されている「あたりまえになり」「つかいこなされている」は中身が分かりにくい。どういうことなのか、分かりやすい表現に修正した方がいい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「2050 年目標」を「2050 年将来像」に修正する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「あたりまえになり」「つかいこなされている」を削除し、「浸透」、さらに「先進」していることを追加。加えて、区外にまで広がっていることを示す。</li> </ul> <p>【2050 年将来像】</p> <p>「生物多様性を基盤とした社会課題解決、持続可能なライフスタイル・社会経済活動が浸透する脱炭素社会が実現し、自然共生の先進都市となっているとともに、区をこえて広く波及している」</p>          |

|  |   |
|--|---|
| <p>&lt;ネイチャーポジティブの状態の説明について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ネイチャーポジティブという言葉も、だれもが描きやすい別の言葉で表現することも考えられる。</li> <li>・今の生物多様性からの恩恵を将来にも得られるようなことを具体的に示せるとよい。区民にとってどんな行動が“ネイチャーポジティブ”になるのか、上手く表現できるとよい。</li> <li>・ネイチャーポジティブは、①生物の生息空間や生物種のこと、②市民の具体的行動の2つで計ることができるのではないか。</li> <li>・ネイチャーポジティブを広く考えると、生物多様性を支える取組み・活動の状態まで含まれる。それらは目標ではなく手段としてとらえるのがよいのではないか。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市ならではの生物多様性を基盤とした豊かな暮らし・活動が成り立っている状態、皇居の豊かな生態系が区内外に広がっている状態、千代田区ならではのネイチャーポジティブの実現の姿として、2030年目標に表現を加える。</li> </ul>   |
| <p>&lt;ネイチャーポジティブの認知度向上について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加型の体験活動が少ない。屋上菜園など、市民、在勤者の参加型の取組みがあるとよい。</li> <li>・まずネイチャーポジティブの概念を区民が知る、認知度を上げていくこと、次に、企業（の在勤者）が参加できることを増やしていくこと、そのような仕組みができると区の特徴を活かしたものになる。さらに次の段階で、そのような取組みを世界にも発信していく、子供たちへのメッセージ、周知教育をよくやっていく、ということも重要である。</li> <li>・ネイチャーポジティブの「運動」を区でやっていく、という視点が大事。</li> <li>・学校の屋上に菜園やビオトープがあり、いろいろな生きものが集まって児童の体験の場になっている。ただし簡単に増やせるものではない。関係者の意識、協力体制を整えていくことが重要。学校を軸に地域で取り組んでいくという体制が重要である。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略Ⅱにおいて、</li> <li>①多様な主体の連携による普及啓発に関する取組みの推進（「生物多様性の普及啓発」）</li> <li>②次世代教育を促す「ESD（持続可能な開発のための教育）」の推進</li> <li>③取組みを評価し、より活発化させるための「生物多様性表彰制度の継続実施」</li> <li>④日常生活の消費行動において生物多様性を意識させるしかけ「エコロジカル・フットプリントの見える化」</li> </ul> <p>などを通して認知度向上も図る。</p> |
| <p>&lt;社会変革・行動変容の促し方&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・千代田区外にも影響するようなこと、行動の背後に区外の生物多様性にどんな影響・関係があるのかを伝えていくことが区の役割のひとつ。</li> <li>・マイナスなことをしないという考えのもとで貢献できること、一方どんなことが損失につながるのかを示していく、そのアプローチも大事。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「エコロジカルフットプリントの見える化」において生活の環境負荷（生物多様性へのマイナスの影響）を分かりやすく伝える新規の取組みとして実施する。</li> </ul>  |

|   |   |
|---|---|
| <p>&lt;エリアでの連携の取組みの展開について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業でも同業者間での横のつながりを活かして、エリア間、区とも連携して相互の取組みを広げていくようなこともできるとよい。</li> <li>・人々の取組みをどうやってエリアでとらえて考えていけるか、そこが生物多様性にとって重要。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「協働・連携による緑地や水辺の創出・維持管理の推進」（商店街・町会など）、ウォークブルまちづくりなど、連携・協働でないと実現できない取組みを入れ込む。</li> </ul>                                    |
| <p>&lt;生態系ネットワークの見える化について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まず重要な場所がどこかを明らかにする、そのうえで、劣化しているところ、生物多様性の低いところで、何ができるかを考えていく。また、街路樹もあるが、区内の大径木の調査が行われているので、その情報が生物多様性に有効ではないか。</li> <li>・企業の緑地、OECMのポテンシャルがある。区有地や都立公園などもある。そういうところも含めて、区として30by30をどうしていくか考えていけるとよい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生態系ネットワークの見える化」において、既存の公共緑地のほか、企業緑地、認証緑地、OECM認定サイト、街路樹のデータを追加している。さらに大径木の情報も追加し、強化すべき場所、創出すべき場所を示していくことを検討する。</li> </ul> |